

## シンポジウムと講演会を開催して

### メインテーマ

「在宅医療」を知っていますか？ 家で最期まで療養したい人に  
＜精神に障がいを持っていても、最期まで自分らしく生きたいを支えて＞

### \*シンポジウムテーマ

精神に障がいを障害を持っていても最後まで自分らしく生きたいを支えて

シンポジスト：村野 健一郎（医師）

那須 由香（グループホーム世話人）

松本貫太郎（多摩たんぽぽ訪問看護ステーション管理者）

大室 拓道（同 訪問看護師）

千葉 善弘（有料老人ホーム大沢の家たんぽぽ 施設長）

### \*講演テーマ

最期まで自分らしく起きるために大切な居場所とは

講演者：大金ひろみ先生（東京医療保健大学・大学院准教授）

司会：千葉信子（取締役・看護師） & 前田昌紀（たんぽぽ訪問看護むれ管理者）

期日：平成28年8月19日(金)午後6時～8時30分

場所：三鷹市協働センター2階

参加費：無料

助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

主催：多摩たんぽぽ&たんぽぽの会

## 感想

このたび、勇美記念財団の助成をいただき、シンポジウムと講演会を実施させていただきました。

当社は、平成12年3月に独立型訪問看護ステーションを開設以来、看護の中心に多機能的にサービスを増やしながらか17年弱を経過しています。延べにしてご利用者の数は650名で、様々な病気や障害を持たれている方々に、95名の社員が看護と介護をご提供させていただいています。

中でも、3つの訪問看護ステーションはそれぞれに地域に根差し、地域関係者と連携しながら“地域で生きる、最期まで自宅で過ごしたい”のニーズに即して、沢山の方々にご利用いただいております。又、ご利用者様の中で約半分の方が精神を病んでおられる方です。

ターミナルケアをさせていただく中で、ガン末期や高齢者に限らず、最近では精神障がい者の最期に立ち会うことが増えています。しかし、精神障がい者の多くは、単身で生保生活者が多く、精神障がい者に対する偏見は避けがたいことと金銭的な問題も加わり、人間らしく最期を自宅で見ていただくも、療機関や施設も少なく、医療拒否が強い彼らは、最期は悲惨な状態でひっそりと無くなってしまふ事例が多く、訪問看護師としてジレンマとやるせなさを感じる事がしばしばです。

今回、私たちは地域と医療が連携して、精神疾患とガン末期の女性の患者様のお看取りをしました。精神のグループホームに住み、精神の作業所に通い人は死ぬまで働き続けることが大事というポリシーを持っており、酸素療法を続けながらタクシーで通所されました。一人暮らしはできなくなって、生活の場を有料老人ホームに生活の場に変えてからも尚、生きている限り尊厳を持ちながら頑張る姿を関係者一同見守り、看取りました。彼女は、最期まで尊厳を持ち生き抜きました。精神でも、一人暮らしでも、最期のステージまで自分で選択して過ごされた彼女の生きざまを、他界の後に、精神障がい者の仲間と共に、偲ぶ会を開催し彼女の生きざまを称えました。

精神を病んでいても卑屈になることはなく、自分の生き方を貫くことの大事さを伝えました。

今回のシンポジウムには、武蔵野三鷹の精神障がい者に関わる代表的な方々の参加が見られました。参加された仲間からの感想は、タイムリーな時期に関心深いテーマでいい体験を聞けたという感想が寄せられました。又、主治医は内科医でしたが、精神障がい者のお看取りを初めて行い、精神障がい者の置かれてきた歴史、生活の場を変える、麻薬を使うことの説明に関しても、常よりもわかりやすく、丁寧に、心に添いながら時間をかけて納得してもらったことの話があり、チームとしてもいい関係で働けたことを感じました。

よって、期待される効果が得られたと判断しました。

助成していただきながら開催できたことに感謝申し上げます。

平成28年10月5日

有限会社球たんぼぼ介護サービスセンター 取締役・看護師 千葉信子

## シンポジウムと講演会のご案内

# 「在宅医療」知っていますか？ 家で最期まで療養したい人に。

もし自分が高齢や病気等で最期を迎える時がきたら、あなたは、「どこで」そして「誰に」みてもらいたいと思いますか。多くの方は、「自宅」「家族にみてもらいたい」と答えるのではないのでしょうか。少子高齢化、そして多死時代と言われる現在、医療制度は「施設から」から「在宅へ」と急速に変化しています。

中でも癌と診断される方は年々増え、病院での入院治療は短期間で、最期を送るための療養の場の選択は大きな課題となっています。

ご本人が自宅に帰り最期を過ごしたい！と望んだ場合、ご家族は環境整備や家族調整、介護力を検討して本人の望みに添えようと考えられるご家族は近年増えてはきましたが、単身生活をされている認知症や精神障害を持つ方の場合、家でとか自宅に帰りたいと本人が望んだとしても、本人の望みが叶わない事例が多いのが現実です。国はこうした事由に対して、それまで暮らしている、例えばグループホーム、老健、特養等でも、最期のお看取りまで行うことを奨励していますが、夜間看護師を配置できない等の理由から、最期は病院へ送るという現実が殆どです。たんぽぽは、住宅型の有料老人ホームを始めて12年余りですが、ご本人及びご家族の希望に添い病名に関係なく、30名余りの方のお看取りを経験しました。昨年的一年間だけでも7名の方のお看取りを経験しましたが、その中C子さんがおりました。今回は、基礎疾患として精神障害を持ち癌と闘いながら存分に自分らしく生き抜いたC子さんの生き様に関わった関係者が集合して、自宅に代わる我が家で最期まで自分らしく生き抜いたことをご紹介しますながら、今後精神疾患の方の最期に関する支援の在り方を学びたいと思います。

### 内容

サブテーマ：＜精神に障がいを持っていても“最期まで自分らしく生きたい”を支えて＞

シンポジスト：担当村野医師、訪問看護師、大沢の家施設長、グループホーム世話人等

講演テーマ：「最期まで自分らしく生きるために大切な居場所とは」

講演者：大金ひろみ先生（東京医療保健大学・大学院准教授）

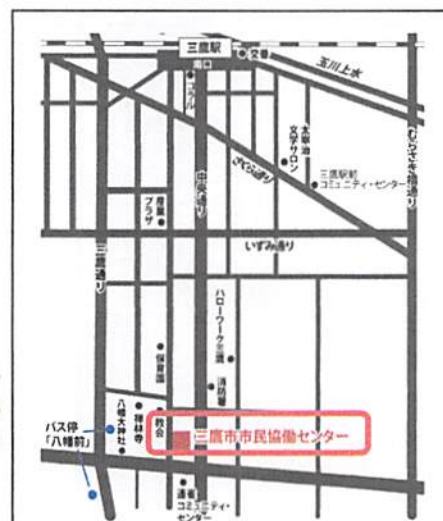
期日：平成28年8月19日(金)午後6時～8時30分

場所：三鷹市協働センター2階 三鷹市下連雀4-17-23  
(三鷹駅南口より徒歩10分)

参加費：無料

主催：多摩たんぽぽ&たんぽぽの会

助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団



## 「在宅医療」を知っていますか？ 家で最期まで療養したい人に。

＜精神に障がいをもっていても“最期まで  
自分らしく生きたい”を支援＞

主催：多摩たんぼぼ&たんぼぼの会  
助成：公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団

平成28年8月19日

### 「訪問開始から治療が進むまでの支援」

松本貫太郎  
(多摩たんぼぼ訪問看護ステーション看護師)

- ① GHからの依頼  
先ずは訪問看護を受け入れてもらえるかの相談から
- ② 訪問看護を受け入れるにあたって考えた事
- ③ 問題点
- ④ 訪問看護で出来る事
- ⑤ 訪問看護導入にあたって整備した事

## 1.シンポジウム

シンポジスト： 村野賢一郎（一生堂クリニック医師）  
那須由香（巣立ちホーム世話人）  
松本貫太郎（多摩たんぼぼ訪問看護ステーション看護師）  
大室拓道（多摩たんぼぼ訪問看護ステーション看護師）  
千葉善弘（大沢の家施設長）

## 2.講演

テーマ：「最期まで自分らしく生きるために  
大切な居場所とは」  
演者：大金ひろみ  
(東京医療保健大学・大学院准教授)

### 「C子さんの訪問看護の実際」

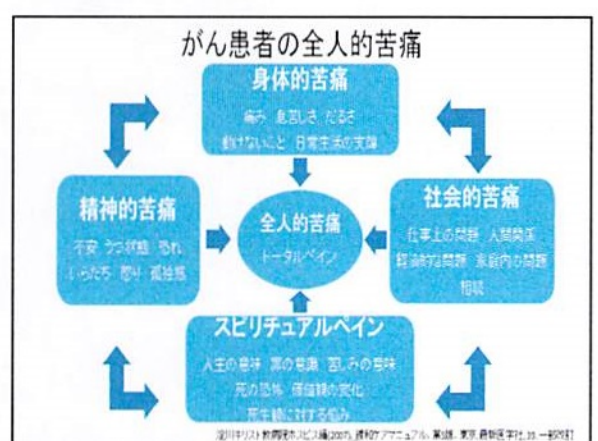
大室拓道  
(多摩たんぼぼ訪問看護ステーション看護師)

- ・2014.7月～ 訪問看護の導入
- ・2014.12月～2015.1月前半 病態の進行・在宅酸素の導入
- ・2015.1月後半～2015.2月 身体機能の低下に伴う支援の強化
- ・2015.2月～ 身体的症状の出現と情緒の動揺
- ・2015.3月～ 本人の希望に沿って安全・安楽に  
過ごすための支援
- ・2015.4月～ 生活の場の変化
- ・2015.6月 お看取り

### 「グループホームの立場から」

那須由香  
(巣立ちホーム世話人)

- ① 利用者のプロフィール
- ② GH入居後の生活
- ③ 癌の経過
- ④ たんぼぼとの出会い
- ⑤ 病状・本人の様子
- ⑥ 最期の生活について
- ⑦ C子さんから学んだ事
- ⑧ まとめ



## 障害者総合支援法の制度

### ・厚生労働省の見解

「障害者の高齢化・重度化が進むことを背景として、介護が必要な障害者のグループホームの新規入居や、グループホーム入所後に介護が必要となるケースが増加することが見込まれる」とされており、グループホーム(共同生活援助)とケアホーム(共同生活介護)が一元化。

「どこで誰と生活するかについての選択の機会が確保され、地域社会において他の人々と共生することを妨げられないこと」が明記された。

しかし、看取りも含めて最後まで地域で支えるという仕組みは無い状況。

→今後の巣立ち会さんの取り組みに、勝手ながら期待。

## 「偲ぶ会に関して」

那須由香・千葉信子

### <開催に至った経過と思い>

- ・「死生観・質の高い死」
- ・生まれたこと、生きてきたこと
- ・Cさんの生き方
- ・幸せと思える生き方

### <偲ぶ会ができた>

- ・Cさんの生き方をみんなに伝えたい
- ・偲ぶ会を企画
- ・「よりよく死ぬためにはよりよく生きること」
- ・「今を生きる」という意味
- ・グループケア

## 「入所の経過とその後の支援」

千葉善弘

(大沢の家たんぼぼ施設長)

- ① 有料老人ホーム・大沢の家の紹介
- ② Cさんのショートステイ受け入れの経過
- ③ ショートステイの時の過ごし方と入所の決意
- ④ 入所とその後の生活  
痛みとの闘い
- ⑤ 絵本「希望の木」
- ⑥ 6月18日、午後7時49分逝去

たんぼぼシンポジウム&講演会

最期まで自分らしく生きるために  
大切な居場所とは

2016年8月19日(金)

東京医療保健大学医療保健学部

大金ひろみ

## 「精神疾患患者のがん緩和ケア」

村野賢一郎

(一生涯クリニック医師)

- ① 精神医療を取り巻く環境
- ② その中での今回の事例
- ③ プロフィール
- ④ 精神科患者の緩和ケアに一般的特徴、問題点
- ⑤ 現病歴
- ⑥ その後の経過
- ⑦ まとめ  
—精神疾患を持ちながら、適切な退院後緩和ケアを受けるために—
- ⑧ 良かった点

## お話をうかがって

- 精神障がい者であり、がん終末期の患者でもあること

「最期まで自分らしく生きられる」ために

➤このシンポジウムで鍵となっている概念

- ・Recovery  
リカバリー
- ・Shared decision making  
意思決定プロセスの共有

### Shared decision making

- 当事者を巻き込みながら、当事者を含む関係者が相互に影響しあう動的な決定のプロセス
- ・高度なコミュニケーションスキルと対話を媒介にした双方向の交流
- ・選択肢の利益とリスクに関する構造化された情報の共有
- ・見通し、目標、価値観、分かち合い
- ・望ましい決定に向けた行動
- ・決定と合意
- もたらされるもの
- ・人々の健康とQOLが高まること
- ・当事者の内的な変化と成長

辻本千(2011)意思決定プロセスの共有 福生弘洋, 日本看護学会誌, 21(2): 12-22.

### Recovery

- 大きな喪失や外傷体験、偏見を持たれるような状態を体験した個人やコミュニティが「自分を失った」状態から抜け出して、再び「生きている感じ」を取り戻していくプロセス  
重野真美(2013)レジリエンススキルを習いこなすことができる. 精神看護, 1(6): 66-72.
- 人生の回復に焦点があたる  
野中望(2023)「リカバリー」概念の意義. 精神医学, 47(9): 952-963.

### その地域の住民と専門職との協働の必要性

- 三鷹市民のA子さん  
“この地域で、どんなお医者さんがいるか、どこへ行ったらいいか、私たち、わからないんですよ〜”

© 2015 日本看護学会(2015) 100周年記念シンポジウム「高齢者の健康と生活の質を向上させる看護実践」

### Recovery

- 10の構成要素
- リカバリーの第一段階  
希望を持つこと
- その人の「暮らすの場」

http://share.camh.ca/gov/0994308.html?PEP12\_8&CCE7/PEP12\_8&CCE8.pdf

### Shared decision making

- 当事者を巻き込みながら、当事者を含む関係者が相互に影響しあう動的な決定のプロセス
- ・高度なコミュニケーションスキルと対話を媒介にした双方向の交流
- ・選択肢の利益とリスクに関する構造化された情報の共有
- ・見通し、目標、価値観、分かち合い
- ・望ましい決定に向けた行動
- ・決定と合意
- もたらされるもの
- ・人々の健康とQOLが高まること
- ・当事者の内的な変化と成長

## まとめ

### ➤より良いパートナーシップを築くこと

- ・利用者－専門職、専門職－利用者との関係づくり

### ➤自律すること

- ・自分で決めた規則に従う(従い、わがままを抑える)こと。
- ・本人の自律、専門職の自律
- ・自律した専門職であることで支援できる

### ➤経済面も考えて

- ・本人:日頃からコツコツ考える…自律
- ・社会:制度、資源を生み出すこと

---

---

---

---

---

---

---

---